



今年はメジロの姿を一度も見なかった。あるご門徒様のお宅にも、毎年やってくるはずのメジロの姿は見えなかったという。その理由は全く分からないのだが、何かこの地方に特有のわけでも発生しているのであろうか。毎年メジロの来訪を心待ちにしている私は、何か忘れ物でもしたような思いになってしまっている今年の春である。

境内の梅の木も昨年ごろから枝枯れが目立ち始めてきた。飛龍梅も例外ではなく上部の枝がほとんど出なかった。自然のありのままの梅の姿を見つめながら、毎年の期待を込めた思いも作業も、自然の前では無力なのだと改めて知らされたことだった。

## タイ、ベトナムにおける仏教の日常 一ツ木 T・U

タイに三年、ベトナムに十一年勤務し現地の人々の宗教観の一端に触れることが出来たので紹介しようと思います。何分信仰心の希薄な人間故かなりの独断と間違いのあることはお許し願いたい。

タイでは老若男女を問わずあらゆるシチュエーションのあいさつはワイ合掌をしながらサワデイカップ男性、サワデイカー女性となります。時々日本人男性がサワデイカーと挨拶すると、ああこの人はタイ女性に親しくしてタイ語を習った事が見え見えます。タイの仏教徒は七割を超えております。その他に地域精霊プーの祠が市内各所に見られます。その近くをバス若しくは市内高架鉄道BTSを通るときには皆ワイをしています。信仰心は日本よりはるかに深いです。

タイ仏教は上座部仏教以前は小乗仏教といわれるものでインドからビルマ経由で伝わった南伝仏教で自力本願を旨としています。その為ミ出家が数週間から数か月多くの男性が寺院に籠ります。その間企業は休暇を認めることが法律で定められています。人によりますが何人かの人は食事を朝食一食のみを何年にも渡って続けます。本格的に僧侶になろうとする人は寺院に入り修行します。当然性的なことはタブーです。身の回りの世話をする小僧が何人かの修行の面倒を見るのですが、彼らは修行僧のごみ箱を毎朝ぶちまけて紙の匂いを嗅ぎ、不審な場合厳しく叱責することです。修行僧の生活は庶民のタンブン喜捨によるものです。僧侶側からは托鉢ということですがタイではタンブンは自分の為に徳を積む事と考えられ、タイ庶民にとってはタンブンしないことには一日が始まりません。朝早い出勤者はタンブンを近所さんに依頼します。バンコクにはセブンイレブンが二百から三百メートルおきにあります。ここではそのような需要に対しタンブンセットなるものが売られています。

ベトナムの仏教徒は十数パーセント程度であり他にキリスト教徒、新興宗教などがありますがその他の多くは無宗教に近いと思われれます。仏教も道教、儒教との混在が見られます。ベトナムでは中国から南下した大乘仏教で他力本願の阿弥陀信仰で、クリスマスも祝いハロウィンも騒ぐという八百万の神々全てOKという日本に近いものです。市内に托鉢僧の影はなく、正月には仏教徒でなくても観光としての寺院巡りを行います。私の会社でもテト明けの土日には会社社仕立てでハノイ百人、ホーチミン五十人が貸し切り船にて川沿いの寺院をめべります。寺院には飲食店、土産物店が軒を連ね、皆が楽しんでいます。各寺院には仏教、道教、儒教として土地の精霊信仰のお堂がたくさんあります。小額紙幣五百ドン日本円で25円を全ての費銭箱に入れて回ります。寺院の外には500ドン200枚を一万ドンで両替してくれるおばちゃんたちがひしめいています。

日本の神道とは異なりベトナムでは地鎮祭、開所式、工場完成式も仏教僧侶の守備範囲です。ベトナム僧侶はジーンズに僧衣を羽織って現れます。祭壇、お供え物も全て僧侶持参です。勿論祭祀主催者、工事請負者に後でキッチン請求されます。



# 今月の掲示板

## 今年の梅 便り

昨年は例年になく枝の出が悪く、今年は枝が枯れてしまっているような箇所が目につきます。飛龍梅も上部がともあやしい感じがします。



上部がずいぶん  
さみしい感じです。



それでも多くの方がこの梅を目当てに来てくださいました。やさしい枝ぶりその姿にいつも通りの熱い眼を注いでくださいました。本当に幸せな梅だと思います。

今年は吊りびちなも縮小された形で行われていることもあり、人出は例年の三割程度のように思えました。光受寺の境内はバス等による団体客はなかったものの、それを除けばほぼ7割程度の人出であったように思われます。

来年はこの木の様子ですとずいぶん案じられますが、何とか回復を願うばかりです。

わがこころよければ  
往生すべし  
おせひかひび

よい心を保って生きることが往生できる要因であると思いますが、聖人は「凡夫はもとより煩惱具足したるゆえに、わるきものとおもふべし」ときつぱりい切っています。さらに「わがみのわるければいかでか如来むかえたまわんとおもつべからず」とも。

そして「他力は、本願を信樂して往生必定なるゆえに、われらに義なし」と。

つまり煩惱を抱えて生きている私たちが救われる要となる信心は良い心を保つ努力ではなく、本願を信樂する信心にのみ約束されてくることなのです。(聖典594頁)

## 新コーナー

### 十二回連載

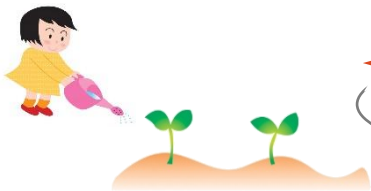
樹林

自然散歩コーナーは12回連載の予定でしたが、新年度を迎え、新しいコーナーに切り替えることにいたしました。自然散歩同様、愛読ください。

1回目



## こころの散歩



### 他力思考の効用

私もは通常、自力の生活に終始していますが、他力の思いを持つことで、心の平安が格段に深まることに気づきます。私は日々家庭菜園に取り組んでいますが、これまで作物は自分で作るものと思ひ込んでいました。しかし、他力の思いが深まるにつれて、「作物は自然が巣立ててくださるものであり、自分はほんの一部をお手伝いさせてもらうに過ぎない」と思うようになりました。

この頃は「家庭菜園は、自然のお手伝い」。自然がお手伝いさせてくださることを考え、日々の感謝のうちに作業ができるようになってきました。

現在80歳代ですが、70歳代には「一切他力の思いをかため、すべて自然が守り生かしてくださることを確信するようになりました。こうして念仏三昧・感謝三昧の日暮らしをいただくようになりました。

### お知らせ

今月十五日(木)は報徳会。一般参詣はなし。  
学習会は報徳会準備のため、中止。  
金曜喫茶は十六日(金)から開始。

